



知事 コラム

私が毎日見ている数字

私が毎日見ている数字があります。それは、県警察本部から毎日届けられる「交通事故日報」に記載されている交通事故死者数です。知事室のドアのすぐ横の壁に張っています。毎日それを見て、死者数が多いとため息をつき、ゼロが続いたりすると思わず胸をなで下ろしたりしています。

衆議院議員の時にはそこまで意識したことがなかったのです。知事になった途端に、県民の皆さんの生命を守るということにこれまでにない強い責任感を感じるようになりました。立場が変わるとこんなにも違うものかという思いです。

さて、1月4日には全国紙の紙面で平成27年中の全国の交通事故死者数が発表されました。

ワースト1位が愛知県の213人、2位が大阪府の196人、3位が千葉県の180人、4位が神奈川県

の178人、5位が北海道と埼玉県の177人、7位が兵庫県の171人、8位が東京都の161人、9位が静岡県の153人、10位が福岡県の152人です。人口の多い都道府県が上位です。

本県の交通事故死者数は、昭和31年以降では平成26年の173人に次ぐ少ない数でした。

しかし残念な点があります。高齢者の死者数が81人で死者数全体のほぼ半数を占めています。この傾向をまだ克服できていないことです。

改めて、知事部局と県警察本部とで課題解決に向けて必要な対策を講じていきたいと思いをします。

ところで、本県の交通事故死者数は全国ワースト5位ですが、ここで少し見方を変えて、人口10万人当たりの交通事故死者数を見てもみると、少ない順に、1位が東京都の1.20人、2位が神奈川県の1.96人、3位が大阪府の2.22人、4位が

埼玉県の2.45人となります。

本県は主要道路がひしめき交通量が多い割には、人口当たりで見た死者数は意外に多くないということがご理解いただけたと思います。

数字は嘘はつきません。しかし、特定の数字だけを見て全体像を見誤ってもいけません。

さまざまな数字とにらめっこをしながら、その本質的な意味を考え、どうすれば県政に生かせるのかを考えています。



埼玉県知事 上田 清司